

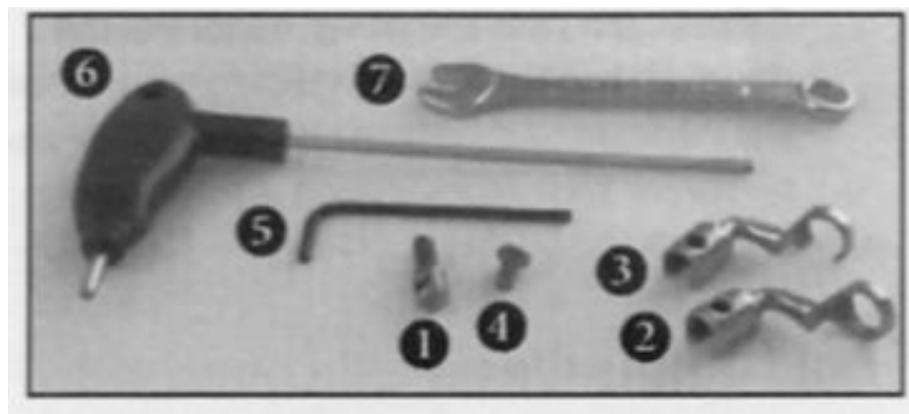
## ハンディ・キルター・スウィートシックスティーン押え金変換手順

この変換キットの取り付けが正確に実行されない場合には、予測できない不具合が発生する恐れがありますので、この説明書を十分ご理解の上で実施するようにして下さい。尚、ハンディキルター社およびキルトガーデン社は、個人で変換を試みたあとの不具合に関しては一切責任を負いかねますので、ご理解のほどお願いいたします。

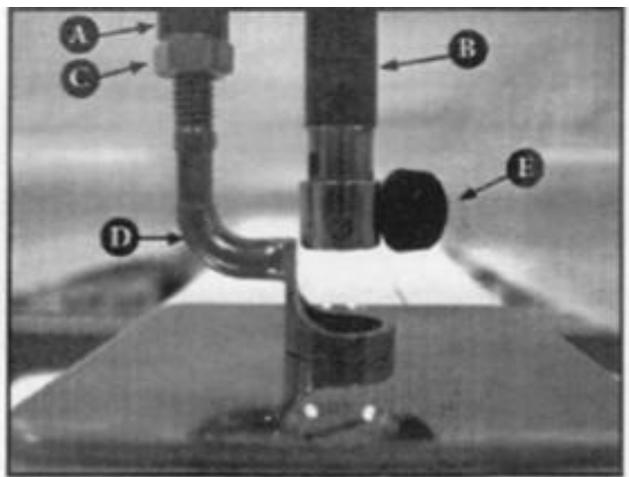
押え変換キットに含まれる部品と道具：

1. ハンディ押え装着部品
2. 新型標準フリーモーション押え
3. 新型オープントウフリーモーション押え
4. M4 サイズネジ
5. 2.5 mm六角レンチ
6. 3 mm六角レンチ
7. 8 mmスパナ

これらに加えて、マイナスイドライバーが必要になります。

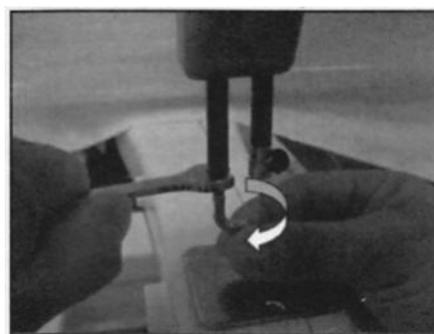


- A: ホッピング機構付押え棒  
B: 針棒  
C: 固定ナット  
D: 押え金  
E: 針止めネジ

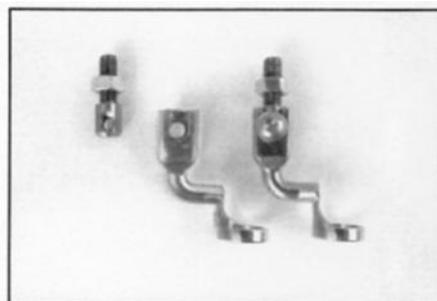


### ステップ(1)

- ① ミシン後方の弾み車を回して針を最上点に上げます。
- ② 針を取り外します。針板もマイナスイドライバーを使って外します。
- ③ スパナを使って押え金を固定しているナットを時計方向に回して緩めます。
- ④ 押え金を時計方向に回して取り外します。押え金フレームにあたって回らない場合は、押え棒を強く指先で握って持ち上げて外します。



- ⑤ 取り外した押え金のナットを取り外して、新しい押え装着部品に取り付けます。このときナットがねじ山の中央くらいまで来るように回します。写真右参照

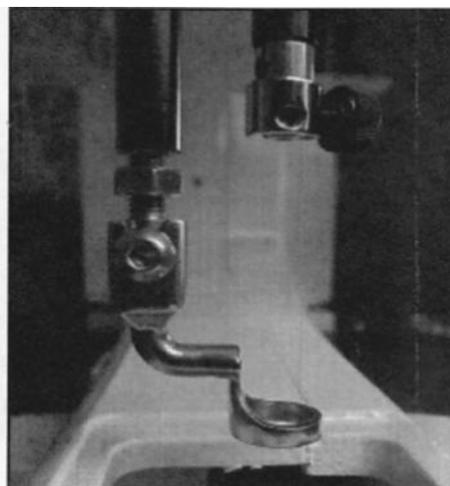


- ⑥ 新しいフリーモーション押えをこの押え装着部品にきっちり差し込んで、付属品のネジで取り付けます。ネジは2.5 mmの六角レンチでしっかり締め付けます。

ご注意！

もし、新型のカウチング押えもご購入された方は、この新しいフリーモーション押えではなく、カウチング押えを取り付けてください。その方が押えを押え棒に固定するときに中心を出す作業が楽になります。

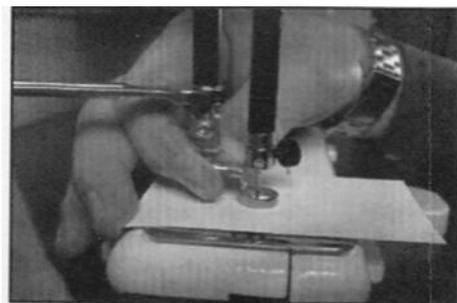
- ⑦ 押え金を取り付けた押え装着部品を、押え棒に反時計方向に最低4回転させてねじ込みます。取り付け時に押え金がフレームに当たって回せないときは、押え棒を指先で強く持ち上げて行います。押え棒に対してネジがまっすぐに向いていることを確かめてください。ネジが押え棒に対して斜めになっていたりするとねじ山をつぶすこととなりますので、指先で軽く回るのを確かめながらねじ込んでください。



- ⑧ この状態で針板を取り付けます。
- ⑨ 薄手の名刺を針板の上に置いて、弾み車を回して、針棒と押え棒を最下点まで下げます。
- ⑩ この時押え金の底が名刺に軽く触れる程度まで押え金を左右いずれかの方向に回して調節します。押え金の底が針板面と約0.5 mmの隙間になるように、すなわち名刺の厚さ程度まで回して上げるか、または下げます。この時、押え金と針板面上の隙間がどうしても名刺の厚さ程度に旨く調節できないときは、押え装着部品のネジを4回転以上回して押え棒にねじ込んだのを確かめます。適正な隙間は⑭で内部機構にアクセスして調節します。
- ⑪ 弾み車を回して針棒を最上点に上げます。
- ⑫ 針を取り付けます。

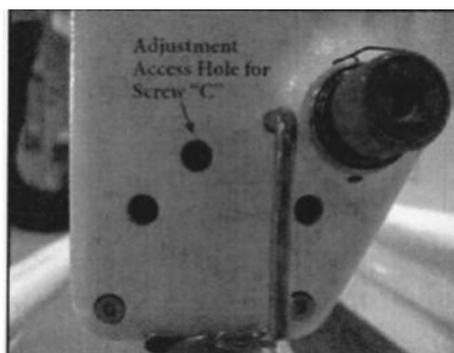
- ⑬ 押え金の中心に針が位置するのを確かめながら、押え金をしっかり持ちながら、押え装着部品上のナットを締め付けて固定します。

押え金の底と針板面上に既定の 0.5 mm 以上の大きな隙間があるときは、次のステップで作業を進めます。



⑭ 内部的な調節

- 針が最下点にあることを確かめてください。
- 薄手の名刺を押え金の下に差し込みます。
- 右の写真に示された穴Cに付属品の長い六角レンチ 3mm を差し込んでネジを軽く緩めます。
- 押え棒を小刻みに動かしながら上下に動かして押え金と針板面上の隙間を調節します。
- 押え棒のネジを締め付けるときは、六角レンチの先でコンタクトしているネジを下方向に押し付けるようにしてネジを締め付けます。もしネジを押し付けることなく締め付けると押え棒がバネの力で下がって適切な隙間を確保できません。
- 名刺を取り除きます。



最終チェック

適切に変換作業がなされた場合には：

- 弾み車を手で回したとき何の抵抗も感じずに軽く回るはずです。
- 押え金が最下点の時に、針板面上に 0.5mm の隙間があるはずです。
- 針は、押え金の中心を貫通していますか？ カウチング押えあれば取り付けて確かめてください。

押え金が最下点で、針板との隙間が大きいときは、布がフラッキングという現象を起こして、バタつき糸調子を狂わせ、また目飛びなどが起こります。押え金の底が僅かに針板面上に接触する程度は許容範囲です。

キルトガーデン